



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月31日

上場取引所 東 大 名

上場会社名 第一三共株式会社

コード番号 4568 URL <http://www.daiichisankvo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中山 讓治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 石田 憲昭

TEL 03-6225-1125

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト、報道関係者向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	745,632	7.1	93,540	1.8	95,686	10.7	51,500	193.6
24年3月期第3四半期	696,403	△6.9	91,872	△23.8	86,418	△33.8	17,542	△78.0

(注)包括利益 25年3月期第3四半期 71,074百万円 (—%) 24年3月期第3四半期 △32,331百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	73.16	73.04
24年3月期第3四半期	24.92	24.89

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	1,533,699	862,145	54.1	1,178.19
24年3月期	1,518,479	832,749	53.0	1,143.52

(参考)自己資本 25年3月期第3四半期 829,372百万円 24年3月期 804,941百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
25年3月期	—	30.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	990,000	5.5	100,000	1.8	95,000	24.6	50,000	381.6	71.03

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、9ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、9ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	709,011,343 株	24年3月期	709,011,343 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

25年3月期3Q	5,076,098 株	24年3月期	5,093,137 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	703,924,993 株	24年3月期3Q	703,912,858 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、8ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
【連結業績】	2
【セグメント報告】	3
【研究開発活動】	7
【生産・物流】	7
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	8
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	8
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	9
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	9
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	9
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	9
3. 四半期連結財務諸表	10
(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	12
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	12
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	13
(3) 継続企業的前提に関する注記	14
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14
(5) セグメント情報等	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

【連結業績】

(単位：百万円。百万円未満切捨て)

	2012年3月期 第3四半期累計	2013年3月期 第3四半期累計	対前年同期増減
売上高	696,403	745,632	49,229 7.1%
営業利益	91,872	93,540	1,668 1.8%
経常利益	86,418	95,686	9,268 10.7%
四半期純利益	17,542	51,500	33,957 193.6%

<グローバル主力品売上高>

(単位：百万円。百万円未満切捨て)

品目	2012年3月期 第3四半期累計	2013年3月期 第3四半期累計	対前年同期増減
オルメサルタン 高血圧症治療剤	187,851	188,947	1,095 0.6%
プラスグレル 急性冠症候群治療剤	7,893	11,503	3,609 45.7%

<研究開発費>

	2012年3月期 第3四半期累計	2013年3月期 第3四半期累計
研究開発費 (百万円)	128,793	131,823
対売上高比率 (%)	18.5	17.7

<為替レート>

	2012年3月期 第3四半期累計	2013年3月期 第3四半期累計
1米ドル (円)	79.00	80.01
1ユーロ (円)	110.62	102.18
1インドルピー (円)	1.79	1.50

① 売上高

当第3四半期連結累計期間（2012年4月1日～12月31日）の売上高は7,456億円（前年同期比7.1%増）となりました。

2011年6月に日本で発売したアルツハイマー型認知症治療剤**メモリー**や同年9月に日本で発売した逆流性食道炎等治療剤**ネキシウム**、欧米を中心に販売している急性冠症候群治療剤**プラスグレル**の共同販促収入などの寄与、子会社のランバクシー・ラボラトリーズLtd.（以下「ランバクシー」）の売上高が312億円増加したことなどにより、日本における薬価改定等の影響を吸収し、492億円の増収となりました。

高血圧症治療剤**オルメサルタン**は、欧米において競合ジェネリック製品の発売、製品価格の下落傾向といった環境下にあるものの、前年同期とほぼ同水準の売上となりました。

② 営業利益

営業利益は、増収に伴う売上総利益の増加や全社的な経費節減に努めたことなどにより、17億円増益の935億円（前年同期比1.8%増）となりました。

③ 経常利益

経常利益は、営業増益に加え、当第3四半期末において、インドルピーの対米ドルレート上昇に伴う営業外収益を計上したことなどにより、93億円増益の957億円（前年同期比10.7%増）となりました。

④ 四半期純利益

四半期純利益は、前年同期にはランバクシーと米国司法省（DOJ）との和解引当金に伴う特別損失403億円の計上といった要因があったため、当四半期は340億円増益の515億円（前年同期比193.6%増）となりました。

【セグメント報告】

① 第一三共グループセグメント

売上高は、6,006億円（前年同期比3.1%増）となりました。

a. 日本

日本の売上高は、3,964億円（前年同期比5.2%増）となりました。

国内医薬では、積極的なプロモーションを展開した結果、投与期間制限解除以降**メモリー**、**ネキシウム**の売上が伸長し、売上高は前年同期比5.9%増の3,428億円となりました。

当期においては4月17日に多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変の治療剤**ランマーク**を発売したことに加え、9月10日に2型糖尿病治療剤**テネリア**を発売いたしました。**テネリア**の発売を機に、糖尿病治療剤領域の製品フランチャイズ強化に努めております。

また、2010年4月に設立した第一三共エスファ株式会社は、ジェネリック医薬品の取扱品目を着実に増やし、売上を拡大いたしました。

さらに、2011年4月に設立した北里第一三共ワクチン株式会社や2012年7月に営業開始したジャパンワクチン株式会社を中心としてワクチン事業の拡大を図っております。

輸出医薬では、合成抗菌剤レボフロキサシンの輸出減などにより、売上高は137億円（前年同期比5.6%減）となりました。

ヘルスケア（OTC事業）では、解熱鎮痛薬ロキソニンSなどが伸長し、売上高は376億円（前年同期比4.0%増）となりました。

<日本の売上構成>

（単位：億円。億円未満四捨五入）

区 分	2012年3月期 第3四半期累計	2013年3月期 第3四半期累計	対前年同期増減
国内医薬	3,238	3,428	190 5.9%
輸出医薬	145	137	△8 △5.6%
ヘルスケア	361	376	14 4.0%

<日本カンパニー主力品売上高>

（単位：億円。億円未満四捨五入）

製品名	2012年3月期 第3四半期累計	2013年3月期 第3四半期累計	対前年同期増減
オルメテック 高血圧症治療剤	635	585	△50 △7.9%
レザルタス 高血圧症治療剤	99	126	27 27.5%
ロキソニン 消炎鎮痛剤	473	459	△14 △3.0%
クラビット 合成抗菌剤	277	271	△6 △2.0%
ネキシウム 逆流性食道炎等治療剤	32	127	95 299.7%
メマリー アルツハイマー型認知症 治療剤	67	174	107 160.6%
メバロチン 高コレステロール血症 治療剤	263	199	△64 △24.4%

b. 北米

北米の売上高は、1,378億円（前年同期比1.2%増）となりました。現地通貨ベースでは約17億23百万米ドル（前年同期比0.1%減）となりました。ベニカー／ベニカーHCT、エイゾール、トライベンゾール、ウェルコール等が増収となりましたが、ヴェノファーが競合激化などにより減収となりました。

<第一三共Inc. 主力品売上高>

（単位：百万米ドル。百万米ドル未満四捨五入）

製品名	2012年3月期 第3四半期累計	2013年3月期 第3四半期累計	対前年同期増減
ベニカー／ ベニカーHCT 高血圧症治療剤	673	698	25 3.7%
エイゾール 高血圧症治療剤	116	135	18 15.8%
トライベンゾール 高血圧症治療剤	44	59	14 32.4%
ウェルコール 高コレステロール血症治 療剤・2型糖尿病治療剤	255	298	42 16.6%
エフィエント 急性冠症候群治療剤 (共同販促収入)	65	94	28 43.3%

<ルイトポルド・ファーマシューティカルズInc. 主力品売上高>

（単位：百万米ドル。百万米ドル未満四捨五入）

製品名	2012年3月期 第3四半期累計	2013年3月期 第3四半期累計	対前年同期増減
ヴェノファー 貧血治療剤	278	237	△41 △14.7%

c. 欧州

欧州の売上高は、432億円（前年同期比12.0%減）となりました。現地通貨ベースでは約4億23百万ユーロ（前年同期比4.9%減）となりました。セビカー、セビカーHCTが増収となりましたが、オルメテック／オルメテックプラスが主要国における競合激化、価格下落などの影響により減収となりました。

<第一三共ヨーロッパGmbH主力品売上高>

（単位：百万ユーロ。百万ユーロ未満四捨五入）

製品名	2012年3月期 第3四半期累計	2013年3月期 第3四半期累計	対前年同期増減
オルメテック／ オルメテックプラス 高血圧症治療剤	242	226	△15 △6.4%
セビカー 高血圧症治療剤	69	77	8 11.7%
セビカーHCT 高血圧症治療剤	21	31	10 47.0%

d. その他の地域

その他の地域の売上高は、231億円（前年同期比13.1%増）となりました。

② ランバクシーグループセグメント（2012年1月～9月）

売上高は、2011年12月発売の米国における高コレステロール血症治療剤アトルバスタチン後発品や2012年8月発売の糖尿病治療剤ピオグリタゾン後発品の貢献などにより、1,451億円（前年同期比27.4%増）となりました。

新興国を中心に、ランバクシーと第一三共との営業面での協業を推進しており、ランバクシーのネットワークを通じたオルメサルタンやレボフロキサシンなど第一三共製品の販売もさらに拡大しております。また、自社開発のマラリア治療薬シンリアムを東南アジア・アフリカなどに積極的に展開し、世界各国の医療の向上に貢献しております。

ランバクシーは、cGMPの遵守、並びにデータ信頼性に関する是正プロジェクトを確実に実行しております。

引き続き当社グループ全体として、主力製品を中心とした万全な供給体制の確立を推進するとともに、ランバクシーとの協業により、安定供給と品質保証を両立したサプライチェーン体制を一層整備してまいります。

【研究開発活動】

研究開発におきましては、癌・循環代謝・フロンティア領域などを新薬創出の優先領域と定め、外部資源の積極的な活用によりさらなるポートフォリオの拡充に努めております。

① エドキサバン

心房細動（AF）に伴う血栓塞栓症の予防に関する適応並びに深部静脈血栓症、肺塞栓症患者における静脈血栓塞栓症（VTE）の再発予防に関する適応取得を目的とした大規模グローバル臨床試験（フェーズ3試験）を推進いたしました。これらの試験は、いずれも2012年度中に終了する予定です。

なお、リクシアナの製品名で2011年7月より国内で下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制の適応で販売しております。

② プラスグレール

国内において経皮的冠動脈形成術（PCI）を行った急性冠症候群（ACS）患者を対象としたフェーズ3試験が終了いたしました。加えて、待機的PCI施行患者を対象としたフェーズ3試験を推進いたしました。この試験は2012年度中に終了する予定です。

また虚血性脳血管障害患者を対象としたフェーズ3試験も2014年度中の終了を目指し推進しております。

③ デノスマブ

デノスマブは骨代謝に関わる抗体医薬品であり、米国アムジェン社から日本国内での開発・販売権を取得しております。

ランマークの製品名で2012年4月より国内で多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変の適応で販売しております。

また、2012年3月に骨粗鬆症の適応での追加申請を行っております。

④ ラニナミビル

イナビルの製品名で2010年10月より国内で抗インフルエンザウィルス剤（治療適応）として販売しております。

さらに2012年11月に予防適応の追加申請を行いました。

【生産・物流】

当社グループは、グループ全体での競争力のある生産体制を構築するために、国内サプライチェーン機能子会社3社（第一三共プロファーマ株式会社・第一三共ケミカルファーマ株式会社・第一三共ロジスティクス株式会社）を、2015年4月を目処に原薬機能会社と製剤/物流機能会社の2社体制とする方針を決定いたしました。その一環として、第一三共プロファーマ小田原工場と第一三共ケミカルファーマ小田原工場を2013年4月に統合いたします。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における純資産は8,621億円（前期末比294億円増加）、総資産は1兆5,337億円（前期末比152億円増加）、自己資本比率は54.1%（前期末53.0%）となりました。

純資産は、四半期純利益の計上や円安による為替換算調整勘定の増加等により、増加しました。

総資産は、借入金の返済や支払債務の減少等により、純資産と比較して増加額は小さくなっております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

2012年10月31日に公表いたしました2013年3月期連結業績予想との差異は、以下のとおりです。

[通期]

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 980,000	百万円 100,000	百万円 100,000	百万円 50,000	円 銭 71.03
今回発表予想 (B)	990,000	100,000	95,000	50,000	71.03
増減額 (B-A)	10,000	0	△5,000	0	
増減率 (%)	1.0	0.0	△5.0	0.0	
(ご参考) 前期実績 (2012年3月期)	938,677	98,202	76,217	10,383	14.75

(修正の理由)

売上高は、9,900億円（前回予想から100億円増）に上方修正いたしました。

国内医薬の売上は競合激化に伴い前回予想より減収の見込みである一方、米国のベニカー等の売上が前回予想を上回る見込みであることや、第4四半期において円安に伴う増収が見込まれることなどを勘案いたしました。

経常利益は、第4四半期にインドルピーの対米ドルレート下落に伴う営業外費用を計上することなどを勘案して、950億円（前回予想から50億円減）といたしました。

営業利益及び当期純利益は、前回予想通りです。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

従来、当社及び一部の国内連結子会社の有形固定資産の減価償却方法は定率法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

この変更は、当社グループ事業のグローバル化や海外売上比率の高まりを契機に海外連結子会社との減価償却方法の統一を検討した結果、製造設備・研究設備等について経済的に急激に劣化・陳腐化することが見込まれなくなっており、使用する有形固定資産が概ね耐用年数内で安定的に稼働し、投資効果が平均的に発生すると見込まれたことから、より費用収益の対応の適正化を図るために行うものであります。

これにより、従来と同じ方法によった場合と比較し、営業利益は3,042百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,996百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	128,926	141,536
受取手形及び売掛金	228,505	246,919
有価証券	191,336	158,174
たな卸資産	169,660	172,421
繰延税金資産	93,999	95,008
その他	51,252	51,788
貸倒引当金	△2,152	△2,114
流動資産合計	861,530	863,734
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	129,330	136,200
機械装置及び運搬具（純額）	48,051	54,220
土地	35,688	35,367
建設仮勘定	33,660	49,038
その他（純額）	14,512	16,663
有形固定資産合計	261,242	291,491
無形固定資産		
のれん	82,742	74,090
その他	150,546	140,696
無形固定資産合計	233,288	214,787
投資その他の資産		
投資有価証券	104,560	106,021
繰延税金資産	43,186	41,677
その他	14,978	16,543
貸倒引当金	△307	△555
投資その他の資産合計	162,417	163,687
固定資産合計	656,949	669,965
資産合計	1,518,479	1,533,699

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	61,824	67,215
短期借入金	71,079	63,433
未払法人税等	5,313	9,171
返品調整引当金	578	3,620
売上割戻引当金	2,928	2,204
災害対策引当金	767	44
和解費用引当金	39,138	38,852
その他	213,335	214,864
流動負債合計	394,965	399,404
固定負債		
社債	100,000	100,000
長期借入金	104,000	87,127
繰延税金負債	52,081	51,201
退職給付引当金	10,060	12,401
役員退職慰労引当金	184	199
環境対策引当金	1,246	—
その他	23,191	21,219
固定負債合計	290,764	272,149
負債合計	685,729	671,553
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	105,194	105,194
利益剰余金	742,409	751,641
自己株式	△14,558	△14,501
株主資本合計	883,045	892,334
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,308	23,279
繰延ヘッジ損益	198	932
為替換算調整勘定	△100,611	△87,173
その他の包括利益累計額合計	△78,104	△62,961
新株予約権	3,495	4,040
少数株主持分	24,312	28,732
純資産合計	832,749	862,145
負債純資産合計	1,518,479	1,533,699

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	696,403	745,632
売上原価	200,540	230,229
売上総利益	495,862	515,403
販売費及び一般管理費	403,990	421,862
営業利益	91,872	93,540
営業外収益		
受取利息	2,059	3,267
受取配当金	2,642	2,361
デリバティブ評価益	—	4,668
その他	3,556	2,804
営業外収益合計	8,257	13,101
営業外費用		
支払利息	3,053	3,638
為替差損	3,772	5,577
持分法による投資損失	163	195
デリバティブ評価損	4,155	—
その他	2,565	1,544
営業外費用合計	13,711	10,955
経常利益	86,418	95,686
特別利益		
固定資産売却益	1,814	2,532
投資有価証券売却益	—	612
その他	317	47
特別利益合計	2,131	3,192
特別損失		
固定資産処分損	1,812	1,812
減損損失	308	8,594
投資有価証券評価損	175	1,105
事業再編損	1,279	766
投資有価証券売却損	—	598
環境対策引当金繰入額	—	383
たな卸資産廃棄損	1,677	104
環境対策費	319	46
和解費用引当金繰入額	40,330	—
災害による損失	2,237	—
その他	—	95
特別損失合計	48,139	13,505
税金等調整前四半期純利益	40,410	85,373
法人税等	37,921	29,942
少数株主損益調整前四半期純利益	2,489	55,430
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△15,053	3,930
四半期純利益	17,542	51,500

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,489	55,430
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△104	968
繰延ヘッジ損益	△822	1,153
為替換算調整勘定	△33,523	13,534
持分法適用会社に対する持分相当額	△370	△12
その他の包括利益合計	△34,820	15,643
四半期包括利益	△32,331	71,074
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△13,558	66,625
少数株主に係る四半期包括利益	△18,773	4,448

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	第一三共 グループ	ランバクシー グループ	合計
売上高			
外部顧客への売上高	582,550	113,853	696,403
セグメント間の内部売上高又は振替高	464	672	1,137
計	583,014	114,526	697,540
セグメント利益	85,796	1,185	86,982

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	86,982
取得原価配分額の償却	△2,445
のれんの償却額	△1,809
和解費用引当金繰入額	△40,330
セグメント間取引消去	△1,702
その他の連結調整	△285
四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益	40,410

II 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	第一三共 グループ	ランバクシー グループ	合計
売上高			
外部顧客への売上高	600,554	145,078	745,632
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,305	1,263	2,568
計	601,859	146,341	748,201
セグメント利益	66,627	22,972	89,599

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	89,599
取得原価配分額の償却	△2,049
のれんの償却額	△1,805
セグメント間取引消去	△200
その他の連結調整	△170
四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益	85,373

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(減価償却方法の変更)

「会計方針の変更」の(有形固定資産の減価償却方法の変更)に記載のとおり、従来、当社及び一部の国内連結子会社の有形固定資産の減価償却方法は定率法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。これにより、従来と同じ方法によった場合と比較し、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、「第一三共グループ」で2,996百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「第一三共グループ」セグメントにおいて、商標権・特許権の一部について減損損失を計上いたしました。

当初想定されていた収益が見込めなくなったこと等により、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当第3四半期連結累計期間において7,340百万円を減損損失に計上しております。